キコニアレター

（「コウノトリ通信」改め）

2014.10.1発行
No.2

鎌谷川でのいきもの調査

園内を流れる川に生息するいきものを調査する活動です。シーズン中は，多くの子どもたちが訪れます。

出前講座

要請に応じ，講師がコウノトリの剥製と教材を手に学校やお近くの公民館へ伺います。

郷公園における環境教育の推進

郷公園には３つの役割があります。それは「種の保存と遺伝的管理」，「野生化の科学と実践」，そして「人と自然の共生の普及啓発」です。

最初の２つは，野外コウノトリが人の助けを借りずとも自立的に健全な集団，つまり真の野生個体群を形成するための研究を行うことなのですが，最後の「普及啓発」だけは，少し趣きが異なることにお気づきでしょうか。これは，先ほどの２つの取組を踏まえ，人間と自然の共生の大切さを訴えかけること，つまり郷公園における「環境教育」に他なりません。郷公園が県立動物園ではなく，県教育委員会の機関であるのは，このような意味合いもあるのです。

では，郷公園で行っている環境教育について紹介します。はじめは，環境学習・自然学校の受入れです。兵庫県では兵庫型「体験教育」を推進しており，全公立小学校の３年生が環境体験学習，５年生が自然学校に取り組んでいます。その取組の一つとして今年度も２，０００人を越える子どもたちや先生が郷公園を訪れました。遠方の学校へは要請に応じ，出前講座も行っています。教員を対象とした講座では，環境学習実践講座や初任者研修を実施しています。一般の方には，月に2回のガイドウォークや園内の特別公開，現地で本物に触れてもらう「野生復帰体験講座」などを行っています。

希少動物を人里近くにリリースし，人間との共生を図る郷公園の取組は，世界的にも前例がなく，毎日が実験と検証の日々です。苦労が多い分，やりがいもある仕事です。今後もキコニアレターを通し，郷公園の取組を紹介していきます。どうぞ，ご期待ください。

県立コウノトリの郷公園指導主事
西井　喜久

コウノトリの個体数 (2014.8.30 時点)

1　飼育コウノトリの個体数

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
県立コウノトリの郷公園	26	31	2	59
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	15	14	3	32
養父市八鹿町伊佐地区放鳥拠点	1	1	0	2
朝来市山東町三保地区放鳥拠点	1	1	0	2
計	43	47	5	95

2　野外コウノトリの個体数

カテゴリー	オス	メス	計
リリース	9	10	19
野外巣立ち	28	36	64
野生	0	1	1
計	37	47	84

●郷公園 Topics

コウノトリの郷公園「エコ研究部」の取組

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント科准教授
兵庫県立コウノトリの郷公園研究部長補佐　　大迫　義人

現在の県立コウノトリの郷公園の研究部門は，エコ研究部，ジオ研究部，ソシオ研究部から構成されています。郷公園が開設された平成 11 年度には田園生態研究部しかなかったのですが，平成 22 年度に山陰海岸ジオパークの国際認定に向けてジオ環境研究部が増設され，今年は，兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の開設にあわせて，ソシオ研究部が増設されるとともに，その他の部門も改称されました。コウノトリの野生復帰には，人間も含めた生き物の生活の土台となるジオ（地形・地質）を学び，エコ（生態学）的アプローチで調査，研究及び自然再生の手法開発を行い，ソシオ（人文社会）を通して実践・啓発することが必要であるとの考えに基づいています。

エコ研究部は，かつての田園生態研究部を引き継ぎ，研究部長，研究員として大学院と兼任する教員と郷公園専任の飼育員，獣医師で構成されています。そして，「種の保存と遺伝的管理」，「野生化の科学と実践」，「人と自然の共生の普及啓発」を主要な機能としてコウノトリの野生復帰を推進することを業務としています。

平成 17 年から開始されたコウノトリの野生復帰も今年で 9 年目を迎えました。野外の個体数は，年々増加していますので，一見順調そうに見えますが，いくつかの課題も出てきています。遺伝的多様性の確保と向上，給餌からの段階的脱出，なわばりの適正配置，但馬地域個体群への拡大，持続的な人材育成，地域づくりに向けた知識体系の創造，合意形成の促進などです。

具体的には，例えば，飼育個体群，野外個体群の遺伝的劣化を防ぐために，飼育個体の施設間の交換や他家系個体の追加リリース（写真 1）などを行っています。また，過去のコウノトリの営巣地の解析をもとに，県民局や豊岡市と共同して，現在の巣塔の適正な場所への移動（写真 2）を行い，但馬地域への拡大のために，平成 25 年から養父市，朝来市と共同で新規のリリースを開始しています。そして，野生復帰に関するシンポジウム，フォーラムやサイエンスカフェを定期的に開催して人材育成や知識体系の創造に努め，リリース，救護捕獲や巣塔移設など，対策をとる場合は必ず地元へ出向いて住民との話し合いを経て実施しています。

（写真 1）性比の補正のためのオスの追加リリース
平成24年年9月27日，豊岡市袴狭にて

（写真 2）なわばりの適正配置のための巣塔の移動
平成25年2月7日，豊岡市祥雲寺にて

野生復帰計画には，多くの機関，専門家，住民の協力が不可欠です。エコ研究部としては，これらの多岐にわたる取組を，環境教育を担当する指導主事，環境学習指導員などと連携しながら，さらにソシオ研究部に属する地域歴史学，環境社会学，地域計画学を専門とする研究員などとも協力して学際的な研究と実践を進めているところです。

知ろう！学ぼう！郷公園!!
コウノトリQ&A

-三橋獣医師さんに聞いてみました！-

コウノトリは夜の間は，どうしているんですか？

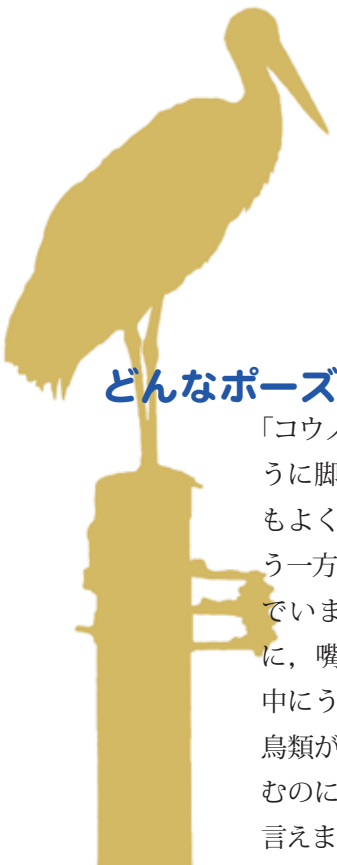
「夜の間は，安全な場所を選んで休んでいます。この行動を『塒（ねぐら）入り』と呼んでいます。」

「安全な場所」とはどんなところですか？

「野外のコウノトリにとって安全な場所というのは，『高いところ』です。そういった場所だと，外敵に襲われないから安心して休めるのでしょうね。」

野外ではどんな場所になりますか？

「コウノトリはサギなどと比べると脚の握力があまり強くありません。ですから細い枝につかまらなくてはならないような場所ではなく，足場の安定した場所を好みます。この辺りでは，電柱の上でよく見かけます。また，携帯電話の電波塔の上や屋根の上にとまって休んでいることもあります。与那国島では水を張った水田の中央部に集団で塒入りしていたことが分かっています。」



どんなポーズで休むのですか？

「コウノトリはフラミンゴと同じように脚の長い鳥です。実は休み方もよく似ていて，片脚を上げ，もう一方の脚だけで立ったまま休んでいます。そしてうつむくように，嘴（くちばし）を胸の羽毛の中にうずめて休んでいます。他の鳥類が首をななめ後ろに倒して休むのに対し，珍しい特徴であると言えます。」

郷公園の秋

9月の郷公園は川面をさわやかな風が吹き渡り，秋の虫が元気に活動しています。鎌谷川沿いの土手を歩くと一斉に飛び立ち，元気な姿を見せるのが今回紹介するバッタたちです。この季節，バッタはコウノトリの格好の餌になっています。どうもコウノトリというとドジョウばかり食べている印象があるようですが，決してそうではないのです。

Grasshopper

では，郷公園には，どんなバッタがいるのでしょうか。代表的な３種を紹介します。

トノサマバッタ	*Locusta migratoria*
クルマバッタ	*Gastrimargus marmoratus*
クルマバッタモドキ	*Oedaleus infernalis*

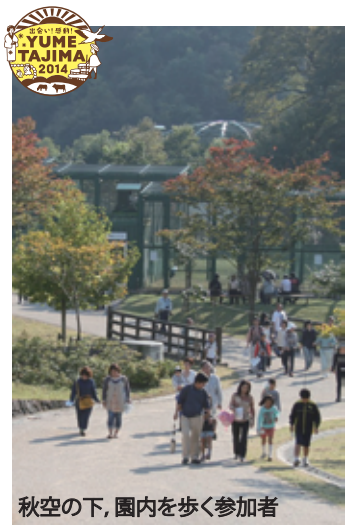
バッタを捕まえたら，丁寧にはねを広げてみましょう。後ろばねに黒いアーチ形の模様があれば，それは「クルマバッタ」か「クルマバッタモドキ」です。飛び立つ時に，この模様が車輪のように見えることから，この名前がつけられました。

では，クルマバッタとクルマバッタモドキはどこで見分けたらよいのでしょうか。まずは，上から観察してみましょう。クルマバッタモドキであれば、胸にアルファベットの「X」のような模様が確認できます。次は2種を横から観察してみましょう。クルマバッタモドキは胸の上部が平らなことに対し，クルマバッタはこんもりと盛り上がっています。これが２つ目の特徴です。

この他にも，郷公園にはさまざまないきものがいます。今度，郷公園に来られたときは，コウノトリ以外の環境にも，ぜひ目を向けてみてください。

INFORMATION！

開園記念事業 郷公園 「特別公開」


秋空の下，園内を歩く参加者

10月18日㊏
19日㊐の2日間

両日とも10:00-15:00（非公開ｴﾘｱのみ）
開園時刻は通常通り午前9時～午後5時

開園 15 周年を迎える郷公園では，開園を記念した特別公開を行います。通常は非公開としている飼育ゾーンに入場し，コウノトリを間近でじっくりと観察できるチャンスです。飼育員の解説やスタンプラリー（記念品あり）も行います。ぜひご家族で参加ください。

参加費：無料
問合せ：県立コウノトリ郷公園

但馬まるごと感動市に郷公園が出展します！

昨年度のイベントの様子

１１月８日㊏
９日㊐の2日間

両日とも10:00-16:00
県立但馬ドーム
（豊岡市日高町名色）

出会い・感動～夢但馬 2014～「但馬まるごと感動市」に郷公園が出展します。コウノトリと記念写真が撮影できるコーナーをはじめ，コウノトリクイズなど環境について親子で体験的に学べるイベントを行います。ぜひみなさんでお越しください。

８月３日(日)，特別公開「コウノトリ」を実施しました。県内外から３４名が集まり，間近で見るコウノトリや，飼育員ならではのこぼれ話に大いに盛り上がりました。

特別公開「コウノトリ」に参加して・・・。

この旅行中に特別観察会に参加できてよかったです。コウノトリを初めて見ましたが，大きく立派で，今までにないことを体験させてもらえてよかったです。自由研究に役立てたいと思います。　（４０代女性）

約１０年以上郷公園の目の前に住んでおり，小学生のころから通っていましたが，非公開エリアに入るのは初めてでした。いつもよりコウノトリを間近に感じることが出来て，とてもよかったです。ありがとうございました！　（２０代男性）

第５回コウノトリ未来・国際かいぎより

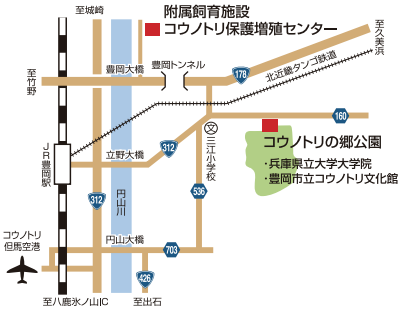
コウノトリの野生復帰の未来をテーマに７月１９・２０日の２日間にわたり開催しました。

１日目は，秋篠宮殿下，眞子内親王殿下のご臨席のもと，国内外から約１,７００人が参加し，園長による野生復帰の経過報告，「野生復帰の今」の報告などを行いました。

２日目は，「コウノトリ未来・国際大学」と題し，国内外から集まった若者たちが，さまざまな分野で活躍する講師陣から講義を受け，”コウノトリ未来宣言”をまとめました。

ACCESS！

◎神戸から[約２時間30分]
　姫路から[約２時間]
　最寄りＩＣ（北近畿豊岡自動車道）
　八鹿氷ノ山ＩＣから４０分
◎ＪＲ山陰本線「豊岡駅」から約４．５km
　全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）
◎コウノトリ但馬空港から約１２km



編集後記

デザインを刷新した「キコニアレター」ですが，多くの方から見やすくなった，読みやすくなったと好評をいただき，編集部一同，大変喜んでおります。一方でタイトルの『キコニア』については，「何のこと？」と質問されることも多いのですが，そのたびに「コウノトリの学名です。」と説明させていただき，話題づくりとしては大いに効果がありました。紙面の体裁が整った後は，記事の充実です。みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。　（総務課 西井喜久）

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork
〒668-0814　豊岡市祥雲寺字二ヶ谷１２８番地
ＴＥＬ．０７９６-２３-５６６６
ＦＡＸ．０７９６-２３-６５３８

26教Ｐ2-019A4

e-mail：kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ：http://www.stork.u-hyogo.ac.jp

開園時間：９：００～１７：００
休 園 日：毎週月曜日（休日に当たるときはその翌日）・１２月２８日～１月４日